フォレストニュース

植林が地球を救う

令和5年(2023)5月10日

No. 185

発行　高津啓洋

パラグアイでの植樹活動再開ストリーを！

昨年春、南米パラグアイのチャコ地方、プエルト・レダで、地球の緑を守る会の派遣員として活動していた伊達勝見さんが亡くなれて以降、一時活動を休止していましたが、2023年度の出発と共に、再開することとなりました。
レダ滞在者と青年ボランティアらの協力によるものです。当会の海外部門としての植樹活動をようやく再開できることを喜んでいます。当会の海外部門担当者とレダと間で密接に連絡を取りつつ、年間目標を設定していきたいと思います。

まず、当会として初期の活動としてプエルト・レダに植えた樹木の現状を調査してみたいと考えています。レダにある樹木の数本が立ち枯れ、または弱っているとの報告が届いています。それに対してその後に周辺の町に街路樹として植えた樹木は、すくすくと成長しているとの報告もあります。

初期に植えた樹木が弱っている原因として、まずは成長した樹木の根が、塩分濃度の高い地盤まで届いたために影響を受けたのではないかと想像できます。周辺の町々の土壌の塩分濃度との差も考えられます。

また、初期の植樹方法から年々、当会担当者や協力していただいた青年の努力によって植樹方法の熟練度が増した結果、周辺の町々に植えた樹木の生育が良かったのではないかとも考えられます。
こうしたことから、初期の植樹活動の現状を調査、その上で次の植樹方法を検討していきたいと思います。また樹木の種類を考慮することも一考かと考えます。現在、マンジョーカという木がこの地の植生に適しているか、挑戦を始めたばかりです。
今後、レダは無論のこと、パラグアイの各町に植樹活動を改めて進めていきます。会員の皆様に適宜、ご報告できるように努めてまいりますので、よろしくお願いします。

レダにアグロフォレストリーを！

アグロフォレストリーとは、「果物などの木と樹木を混植し、作物の収穫と、森林の再生を両立させる農法」のこと。1970年代、日本人移民が入植し、またアマゾン河流域のトメアスで、広島県出身の坂口のぼるさんが、コショウの大規模栽培の失敗を機に、入植地の再生を賭けて発案・開発した画期的な農業と林業の複合経営です。
具体的には、ブラジルナッツノキ、マホガニー、パラゴムなど高木の苗といっしょに、チョコレートの原料であるカカオやクプアス、またマンゴー、パッションフルーツ、コーヒノキ、コショなどを混植します。熱帯雨林を伐採することなく農作物を収穫できるノウハウが確立されたことにより、ブラジル政府は、それまでの熱帯雨林伐採に対する世界中のバッシングからやっと解放されはわけです。このアグロフォレストリーの技術をレダに導入し、フルーツの収穫を商品加工(ジュースの生産など)を行えば、パクーの養殖成功とともに、経済的自立の柱の一つになるでしょう。そしてその成功は、将来、パラグアイの大きな国益につながることは間違いないと思います。

坂口のぼるさん

アグロフォレストリーの畑

[お知らせ] パラグアイの植樹ボランティアを随時募集しています。関心のある方は事務局まで連絡ください